

平成24年度教育研究活動報告書

氏 名	小谷範人	所 属	経済情報学部経済情報学科
学 位	博士（経済学）（神戸大学）	職 位	教授
専門分野	金融、アジア経済		
I 教育活動			
本年度担当科目			
学 部	金融論Ⅰ、金融実務、アジア経済事情、キャリア形成入門、インターンシップ、基礎演習Ⅰ、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱ		
大学院	金融システム特論		
II 研究活動			
これまでの主な研究業績（5件まで）			
（1）著書『シンジケートローン市場構造と市場型間接金融』溪文社（2009）			
（2）学会発表「シンジケートローンのアレンジャー比率に関する分析」日本金融学会秋季大会、2008年10月			
本年度を含む過去5年間の研究業績			
（1）＜論文＞「住友銀行はなぜ尾道で産声を上げたのかー尾道と住友との古い関係ー」尾道市立大学経済情報論集第12巻2012年12月			
（2）＜論文・共著＞「「ツール・ド・しまなみ」開催およびホテル建設による経済波及効果について」尾道大学経済情報論集第11巻2011年12月			

<p>(3) <論文>「米国発金融危機と尾道（日本）経済」尾道大学地域総合センター叢書4、2010年11月</p>	
<p>(4) <教育実践報告・共著>「社会人基礎力養成プロジェクト実践報告－株式会社アクセからの経営課題に対する学生チームの取り組みについて－」尾道大学経済情報論集第10巻、2010年6月</p>	
<p>(5) <著書>『シンジケートローン市場構造と市場型間接金融』溪水社（2009年）</p>	
<p>(6) <論文>「シンジケートローンのアレンジャー比率に関する分析」尾道大学経済情報論集第8巻、2008年6月</p>	
<p>(7) <研究ノート>「シンジケートローンに関する先行理論研究」尾道大学経済情報論集第7巻、2007年12月</p>	
<p>(8) <研究ノート>「間接金融と直接金融の中間形態としての市場型間接金融」尾道大学経済情報論集第7巻、2007年6月</p>	
<p>現在の研究テーマ（3つまで）</p>	
<p>(1) 「インフレ目標政策」の意義と評価</p>	
<p>(2) カンボジアとミャンマーの持続的発展と課題</p>	
<p>研究テーマの進捗状況</p>	<p>上記のテーマについて、文献を読んでいる状況にある。研究成果は、できれば来年度の経済情報論集等に掲載したり、授業で活用したい。</p>
<p>学会、所属団体における活動</p>	
<p>所属学会・所属団体 役職等</p>	
<p>日本金融学会、アジア政経学会、日本経済学会、中四国商経学会（理事、2006年度～2008年度）</p>	
<p>Ⅲ 社会活動</p>	
<p>学外活動</p>	

(1) 平成24年10月、平成24年度尾道学講座で「なぜ住友銀行は尾道で産声を上げたのか？」について講演を行った。

(2) 平成24年7月、尾道市立大学サイクリング部は、「いつでもツールドしまなみ実行委員会」主催による『いつでもツールドしまなみ』モニター走行へ参加した。サイクリング部は、事前に尾道サイクリング協会からルート説明等を受けて当日に臨み、小谷範人を含む3名の部員は約7時間サイクリング走行の後、「オープニング記念完走証」の授与を受けた。